

釧路市の

概況

2

# 1 地勢

本市は北海道の東部に位置し、全国でも有数の広大な行政面積を有しています。また、飛び地を含むという地理的特性を持っています。本市域を流れる釧路川、新釧路川、阿寒川、仁々志別川、音別川などの各河川の流域には、市街地が形成されています。さらに、森と湖、火山、河川、湿原、海などの多彩で雄大な自然に恵まれています。

また、これらの恵まれた自然環境や港湾機能に支えられながら農業、林業、水産業、鉱工業、観光業、商業など様々な産業が発展し、ひがし北海道の中核拠点都市となっています。

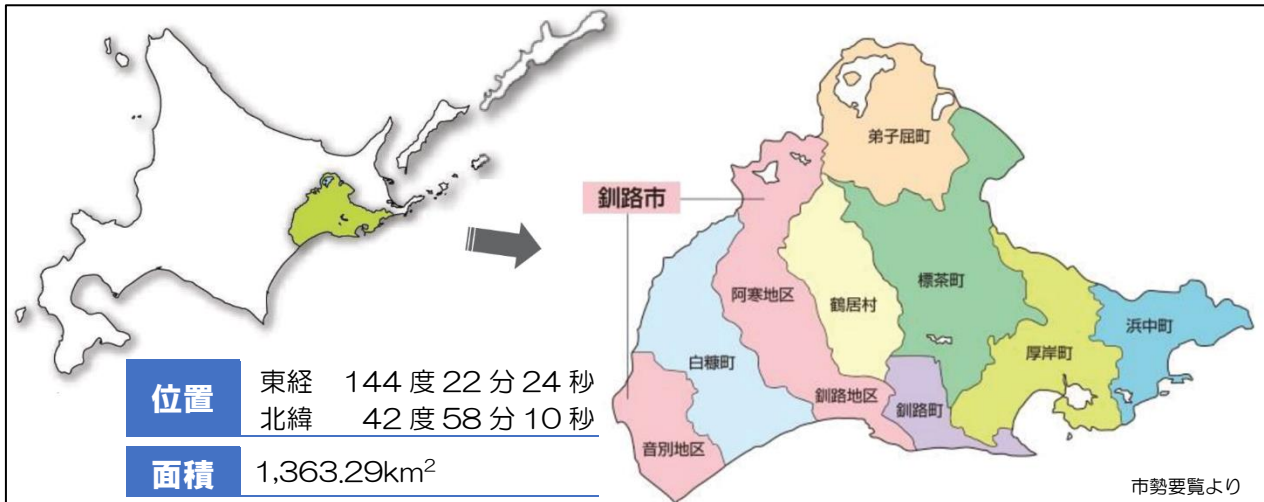


図 本市の位置図

# 2 人口

本市の人口は、2020年（令和2年）国勢調査で165,077人、世帯数80,349世帯となっています。人口の推移をみると、1981年（昭和56年）の229,298人をピークに、以降は減少しています。世帯数については2000年（平成12年）までは増加していましたが、2005年（平成17年）以降は横ばいで推移しています。

また、2020年（令和2年）の平均世帯人員は2.05人で、減少傾向が続いています。要因としては、核家族化・少子化の進行、単身世帯の増加といった世帯形態の変化が考えられます。

なお、市の人口ビジョンおよびまちづくり基本構想では、2040年（令和22年）の人口目標を138,000人としています。

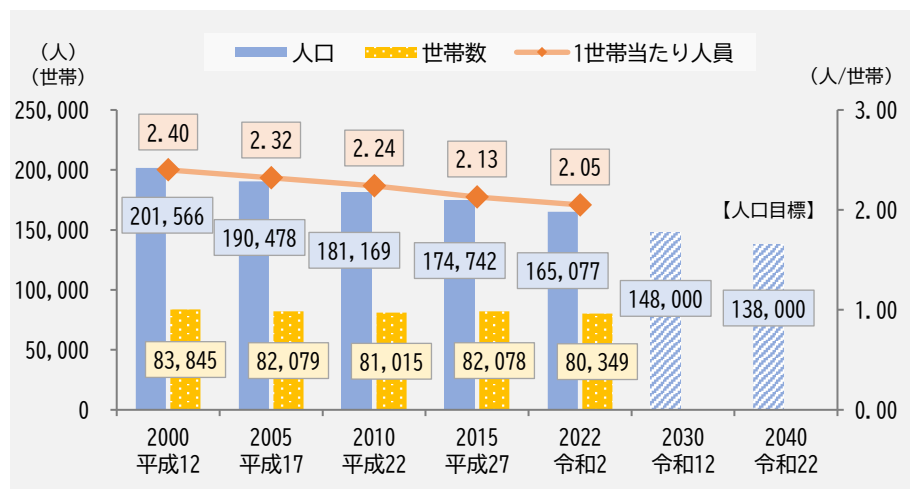


図 本市の人口・世帯数の推移

※2005（平成17）～2020年（令和2年）は国勢調査、  
2030（令和12）、2040年（令和22年）は『釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略』より

### 3 気象

本市の気候は寒流の影響を受け、一般に冷涼です。夏は海霧が発生しやすく日照時間が少ないため、夏季における月別平均気温の平年値は18℃前後となります。秋は晴天が続き、冬は快晴が多く乾燥した日が続きます。冬期間の寒さは厳しい反面、積雪はそれほど多くありません。降水量は年間1,100mm前後となっています。

また、内陸に位置する阿寒湖温泉地区では、釧路地区と比べて年間を通して寒暖の差が大きく、降雪量が多いことが特徴です。

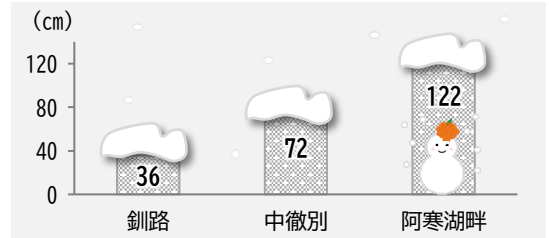


図 地域別積雪量平年値（1991～2020年）  
※気象庁気象統計情報より

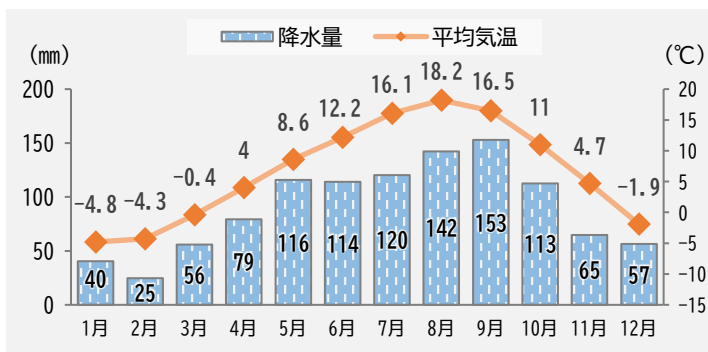


図 月別平均気温と降水量の平年値（1991～2020年）  
※気象庁気象統計情報より

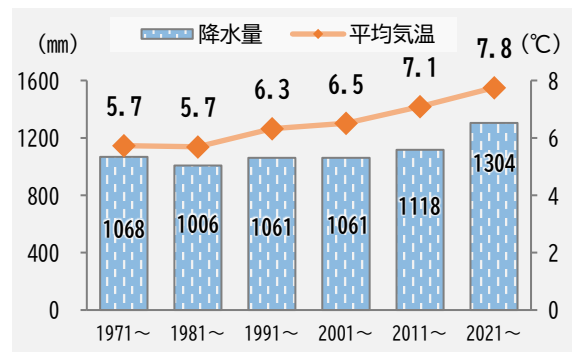


図 年代別平均気温と降水量の推移（1971～2022年）  
※2020年代は2021年、2022年の平均  
※気象庁気象統計情報より

### 4 地形と地質

本市の地形は、太平洋に面する海岸線、その背後の丘陵地と台地、低地、北部の火山地などからなっています。

#### ①丘陵地・台地の地形

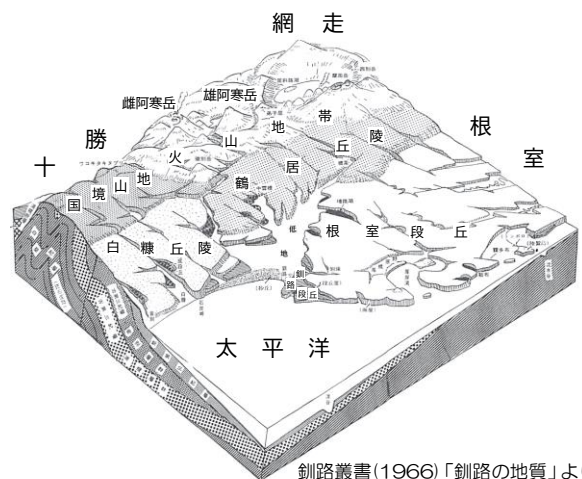
釧路川の東部には根室段丘と呼ばれる海岸段丘が広がっています。また、釧路湿原の北西部に鶴居丘陵、西部には白糠丘陵が釧路平野を取り囲むように分布しています。さらに、これらより一段低い釧路段丘が低地に接しています。

#### ②低地の地形

低地は、海岸線の砂丘地とそれに連続する河口域の沖積地、そして釧路湿原の泥炭地で構成されています。また、仁々志別川、阿寒川、音別川、尺別川沿いの低地には、農耕地に適した平野が広がっています。

#### ③火山地の地形

火山地は、阿寒地域の北部に広がり、雌阿寒岳をはじめとする火山ほか、カルデラ湖の阿寒湖、パンケトー、ペンケトーなどの湖沼が点在しています。



釧路叢書(1966)「釧路の地質」より

図 地形地質概念図

## 5 産業

本市の産業は、令和2年国勢調査の結果によると、就業者数が69,198人であり、産業別構成は第1次産業が2.2%、第2次産業が18.2%、第3次産業が76.6%、そして分類不能の産業が3.0%となっています。

### ■第1次産業

国内有数の水揚げ量を誇る漁業、後背圏の酪農、畜産をはじめとする農業、豊富な森林資源を有する林業が中心となっています。

### ■第2次産業

石炭鉱業の生産量は、年間26～31万tで推移しています。

製造業はパルプ・紙・紙加工品製造業が中心であり、令和3年経済センサス-活動調査では製造品出荷額2,346億円のうち26.2%を占めています。

### ■第3次産業

小売業の年間販売額は、令和3年経済センサス-活動調査で1,802億円となっています。

観光客入込数は2019年度(令和元年度)まで500万人を超えていました。2020年度(令和2年度)は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したものの、その後は回復傾向にあります。

表 第1次産業の概要

水産業	水揚げ量	年間12~20万t
林業	素材生産量	26,152m <sup>3</sup>
農業	作付面積	1592.79ha
	乳用牛	13,943頭
	肉用牛	4,651頭
	採卵鶏	94,149羽

※ 農業は2020年農林業センサスより

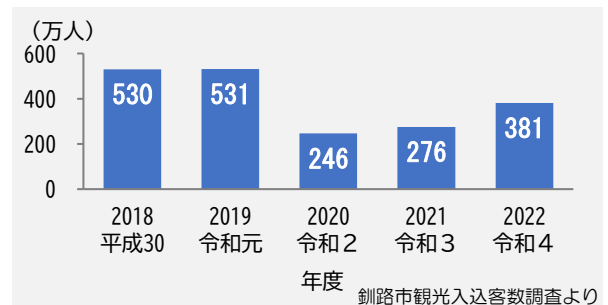


図 観光客入込数

## 6 土地利用

### ■土地利用の状況

本市の2022年(令和4年)における土地利用状況は、山林が16%、農地が6%、原野が3%、牧場が3%、宅地が2%、雑種地が1%、池沼が1%未満、その他(公有地、道路、保安林など)が69%となっています。

このうち、森林面積は本市の総面積の約7割を占めており、木材の生産だけではなく、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止や生物多様性の保全、観光資源としての美しい景観など様々な役割を果たしています。

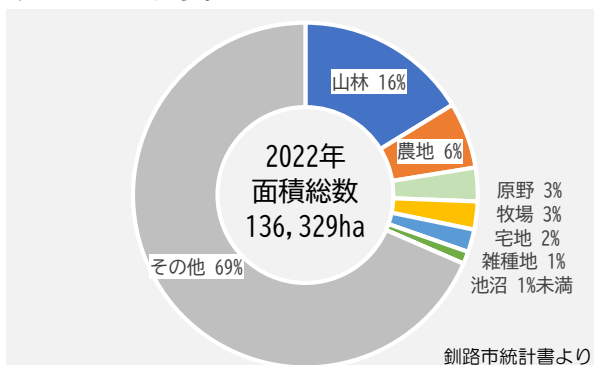


図 地目別面積

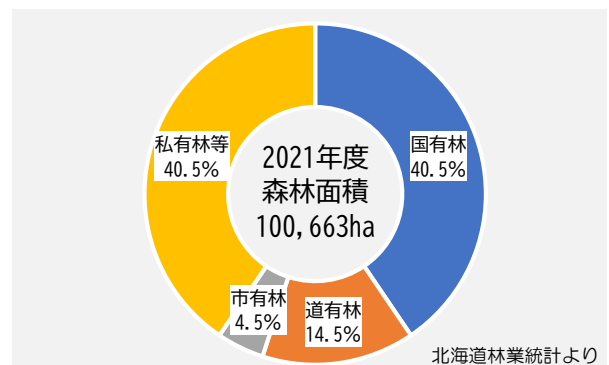


図 森林面積

※ 山林とは課税対象となる「耕作の方法によらないで竹木の生育する土地」  
なお、公有地や保安林は「その他」に含まれる

## ■ 国立公園と鳥獣保護区の指定

本市の釧路地域北部を流れる釧路川に沿って展開する釧路湿原が「釧路湿原国立公園」に指定され、阿寒地域北部の阿寒湖を含む全域が「阿寒摩周国立公園」に指定されています。

鳥獣保護区は、国により 1 か所、北海道により 7 か所が指定されています。うち国指定の鳥獣保護区内には特別保護地区が設定されており、一定の開発行為が規制されています。

なお、釧路湿原と阿寒湖はラムサール条約登録湿地です。

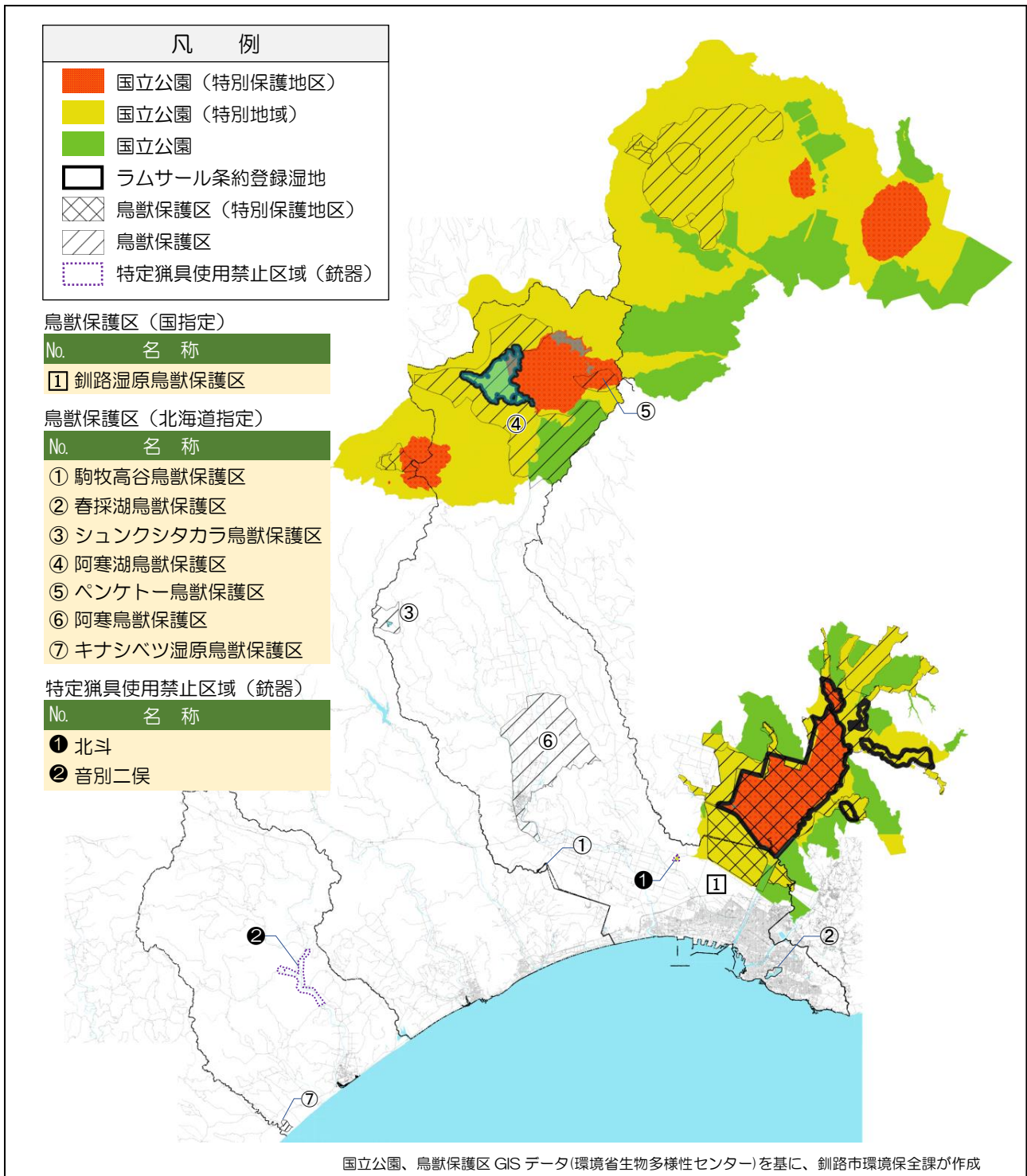


図 国立公園および鳥獣保護区の指定状況